

○創立 20 周年記念祝賀会の新聞記事

・週間ゴム報知新聞 第 2286 号 2009 年 11 月 16 日：(株)ポスティコーポレーションより

創立20周年祝賀会開く



祝賀会には71人が出席した

ベルト伝動技術懇話会

ベルト伝動技術懇話会（籠谷正則会長）は11月6日、創立20周年記念祝賀会を開催した。当日は午後2時から大阪産業大学梅田サテライトキャンパスで記念講演会を、午後4時30分からホテルモントレ大阪で記念式典を行った。祝賀会には総勢71人が出席し盛大に行われた。

平尾氏（元バンドー）と荒木氏（元本田技術研究所）が記念講演

平尾氏は「当会はベルト伝動技術に関する技術向上と関係技術者の交流を目的に1989年に設立し今年で20周年になる。初代会長は早稲田大学の寺田利邦先生、2代目は大阪工業大学の小山富夫先生、3代目は同志社大学の藤井透先生が務められ、会のため尽力していただいた」と語った。

この会はベルトメーカー、原材料メーカー、ユーズ、大学関係者が一堂に会した世界で唯一の団体だ。世界的な不況の中、我々が伝動ベルト関連業界のパイロット役としての役割を果たすべきだと思ふ。この荒波を乗り越えて、当会が30周年、40周年を迎えられるよう努力していきたい」と語った。

記念講演は、元バンドー化学の平尾和俊氏が「伝動ベルト業界の歩み」と題して講演。平尾氏は昭和29年にバンドー化学入社し、退職までの43年間の大半を伝動ベルト事業に携わってきた。同氏は1950年代から現在までの伝動ベルト発

展の歩みを、スライドによる豊富な資料とさまざまなエピソードを交えて分かりやすく解説した。同氏によると、50年代は平ベルト全盛時代とVベルトの量的拡大期にあたり、ベルトメーカーも19社あった。60年代はベルト要求品質の多様化と多角化が進み、モーターゼーションと農業の機械化により需要が拡大した。70年代以降はISO

国際会議への参加、各社の海外進出の活発化、ベルト規格の充実、ベルトに関する用語および記号の統一などがはかられた。研究所の荒木純一氏が「自動車用ベルトシステムの開発の経緯と今後に期待するもの」と題して講演。荒木氏は70年に本田技術研究所に入社、以来約20年間にわたり自動車エンジン用のベルトシステム技術の研究・開発に携わってきた。講演では、原材料メーカー、ベルトメーカー、自動車メーカーの3者による、耐熱・耐久性に優れるHNBRTタイミンクベルトの開発経緯を苦勞話なども交え紹介した。また自動車エンジンの主流になっているチェーン駆動に対して、タイミンクベルトの持つ優位性として①フリクションが少なく燃費の向上が可能②軽量化が可能③コスト低減に寄与する、などの点をあげた。そして、自動車エンジンがチェーンから再度タイミンクベルトに代わるためには「ブラ

陰と感謝して

あいさつする籠谷会長



講演する平尾氏と荒木氏



スアルファの何かが必要。材料も含めて、新しい技術や価値の創造が「要だ」と訴えた。

その後、ベルト伝動技術懇話会の活動に功績があった人たちに功勞賞、特別功勞賞が贈られた。功勞賞は、小山富夫氏、戸谷義弘氏（当時の所属日本ゼオン）、西岡正雄氏（同ユニツタ）、木地隆文氏（同バンドー化学）、金盛克雄氏（同三星ベルト）、荒木純一氏、松下洋介氏（同クボタ）、北折忠弘氏（同椿本チエイン）、黒田博一氏（同ゴムベルト工業会）、平田博之氏（同、内村之衛氏（同）の11人に、特別功勞賞は齋藤史氏（同ニツタ）、平尾和俊氏、保城武氏（同三星ベルト）の3人に贈られた。

ベルト伝動技術懇話会 創立20周年を祝う



会の運営に尽力した約80人が参加

先頭に立ち業界けん引を

ベルトメーカー、大学 急行を行った。第一部 関係者、素材メーカー、 ユーザー業界が会員となり、ユニークな活動を続けてきたベルト伝動技術懇話会(龍谷正則会長)が6日、創立20周年の記念行事を行った。第一部は、大阪市北区の大阪駅前第3ビルの大阪産業大学梅田サテライトキャンパスで記念講演会。元パンドー化学の平尾和俊氏(現カネミツ最高顧問)が「伝動ベルト業界の歩み」と題し講演、元本田技術研究所の荒木純一氏(現埼玉県産業技術総合センター総長)が「自動車用ベルトシステムの開発の経緯と今後に期待するもの」のテーマで講演した。また、その後ホテルモントレ大阪で、記念式典を開催した。会場には同会の運営に尽力したOBを含む約80人が参加し、20周年を祝うとともに、旧交を温め合った。



あいさつする龍谷会長

4代目の会長を務めている龍谷氏は開会のあいさつで、先頭に立ち業界を引っ張っていき、今後とも努力して「かく」と力強く語った。(詳報次号)

[株)ポスティコーポレーション様、ご協力ありがとうございました。]